



初々しさが残る新人のころ…H22.4

新人奮闘記

あれから3年…

皆さんは覚えていますか？平成22年9月発行の「愛道103号」足羽更生園「新人く悩み・奮闘・喜びく」の記事を。

あれから3年の月日が経ちました。あのころ、新人として奮闘していた3人も、今では後輩の手下となる先輩へと成長しました。

3年という節目を迎え、彼らの成長、仕事を通して感じていること、また今年入職した新人職員に対しての温かいメッセージなどをご紹介します。



「利用者の方の笑顔は仕事への活力です」

松岡大二朗さんは、足羽更生園でボランティアをしたときに、職場の雰囲気、先輩職員の利用者の方と接する姿勢を見て、「自分も足羽福祉会職員の二員として働きたい」と強く決め、就職しました。

だからこの仕事が大好き!!

この仕事の一番の魅力は、利用者の方と密にかかわることのできるのだと思います。日によって違った表情や行動を見せてくださり、いつも利用者の方の素敵な笑顔から仕事への活力をいただいています。

また、職員の間関係が良いのも魅力のひとつです。施設内はもちろんですが、足羽福祉会の6施設が合同で集まって旅行やボウリング大会などの行事が催される、施設外で交流ができるのも楽しみのひとつです。

将来は利用者の方、ご家族、職員から、すべての面で安心感を与えられる職員に

なりたいです。尊敬する先輩職員からあらゆるものを吸収し自分の財産にしたいです。

目指すはスポンジのような職員です！



夏祭り♪
大好きな利用者の方と♡



「プラス言葉が伝えられる職員を目指して」

新人のころは、不安定になる利用者の方の対応に戸惑うことも多かったと語る井上理恵さん。しかし「止めようとするのではなく、まず気持ちを受け止めようとする姿勢が大事」と気づき、利用者の方とのコミュニケーションを日々大切にしてきました。

吐き出し
ときには思いを
楽しく仕事を!!

1年目は仕事を覚えること、2年目は新たなことにチャレンジし、3年目はそのチャレンジを続けました。今、こうして楽しく仕事

をはじめ、一緒に働くスタッフがいたからこそだと思えます。同期をはじめ、先輩、後輩を大切に、ときには思いを吐き出すのも大事だと思います。将来は素敵なお仕事を手にしっかりと伝えられる職員を目指しています。

「いつも笑顔で、初心を忘れず」

母親が障害者施設で勤務していたことから、障害者施設で働くことを決めた出口美咲さん。「焦ることはない、できることをがんばろう」と、利用者の方との信頼関係をゆつくり築いていきました。



ありがとうでは
言い尽くせない喜び!

入所当初は、つねったりすることが多かった利用者の方が、肩をトントンたたいてくださるようになったときは、とてもうれしかったのを覚えています。利用者の方の小さな変化、新たな一面を発見したときはとても楽しく思えて、この仕事を選んで良かったと感じます。

◆新人職員への
アドバイス◆

・もうすぐ歓迎会ですね♪飲み会などの席では一緒に飲んで楽しく会話をしましょう。きっとそういう場でしか話せないこともあるはず。悩みなども溜め込まないで!僕でよければ、いつでも相談にのりますよ♪ (松岡)

・共に働き、共に笑い合えるスタッフはかけがえのないものです。ときには辛いことも吐き出して楽しく仕事をしましょう♪ (井上)

・1年目はわからないことばかりで「これでいいのだろうか」と不安だと思います。そんなときは上司や先輩職員に相談し、アドバイスをいただください。不安が自信に変わりますよ☆ (出口)



利用者の方が描いた出口さんの似顔絵